

# 確率論の手引

Volume 1

A 1 確率論

A 2 確率分布

B 1 Brown運動(上)

1962

確率論セミナー

## 「手引」の発行に際して

確率論セミナーでは、これまで *original* な研究と最近特に発展の著しいテーマについての総合報告に重点をおいて「*Seminar on Probability* シリーズ」を出版して来ましたが、今度それと平行して新らしく「確率論の手引シリーズ」を2年乃至3年の予定で発行することになりました。その目標とするところは、確率論の殆んど全分野にわたる解説と、併せて現在の時点での問題点を出来る限り整理することにあります。

ここで手引の発行が計画されるにいたった事情を簡単に説明します。昨年日本数学会編集の数学辞典の改訂版及びその英訳が企画され、その確率部門の小委員会（伊藤、池田、西尾、野本、飛田の諸氏）から確率論セミナーに協力依頼の申し入れがありました（7月）。それ以前に同委員会では項目の試案を作りそれを確率論関係者のかなり広い層に配布してアンケートを求めていました。小委員会からの申し入れについて、当時の事務局から36年度PSGサマーセミナーに出席中の確率論セミナー会員に相談があり、数回討論の結果、以下に「申し合せ」してまとめられたような結論を得ました。（35-36年度事務局通信IV）この結論は小委員会全員の同意を得、10月の総会でも承認されて手引の発行が決りました。

### 1. 全体の方針

a) ここ数年間我々が努力して慣習として来た確率論セミナー運営の基本になっている精神に沿って、セミナー全体として協力してこの仕事を進める。

b) ついては辞典原稿提出までは、小委員会のメンバーを含めて全員が確率論セミナー立場で考え、セミナーの責任で仕事を行う。

c) 多数の人が気持よく協力出来るような民主的な運営方式をとる。すなわち次の形式をとる（以下略）

### 2. 「確率論の手引」について

a) 1. に述べたことを実現する1つの方法として、単に辞典原稿の準備という意味だけでなく、セミナーの研究推進も併せて辞典原稿作成の前に手引をつくる。

b) 従ってこの手引の作成にあたっては、事務局でセミナーの運営全体との関係を調整し、通常のセミナーの支障とならないように、仕事の期限その他について充分慎重にする。

c) 手引の項目の選定は、小委員会の案を尊重するが、手引の内容としてはその中のいくつかに特に重点をおいて考える。

d), e) 略

f) 具体的な手引作製の仕事は、全体の討論調整の他に A基礎関係, Bマルコフ過程関係, C定常過程関係 の3グループに分けて行い仕事の能率化をはかる。

g) 手引原稿執筆は各項目に数名の関係者が共同で行い、その中1人は責任者として企画の進行をはかる。

h) 1人の人が2つ以上の項目の責任者にならないことにするが、協力者としては1人でいくつかの項目にも関係し交流をスムーズにするようにする。

i) 全体の終りは37年9月を目標とする。

3. 辞典原稿について 略

4. 全体の進行についての注意 略

以上が手引発行の趣旨並びにそれが決まるまでの経過であります。その後昨年10月の数学会、本年4月の名古屋におけるシンポジウムで具体化について種々検討を行いました。その結果内容充実のために出版時期を当初の予定より可成り繰り下げる事、またブラウン運動の項の準備における経験をとり入れて、重要な項目についてはサブノートを作る事等が決りました。なお現在予定している「手引」の項目名及び Volume 3迄の内容と時期は次の通りであります。

[A] 基礎関係 1 確率論, 2 確率分布, 3 特性函数, 4 マルチンゲール  
5 確率過程, 6 分枝過程, 7 極限定理

[B] マルコフ過程関係 1. ブラウン運動, 2 加法過程, 3. マルコフ過程,  
4. マルコフ連鎖, 5 拡散過程.

[C] 定常過程関係 1. 予測理論, 2 情報理論, 3. 定常過程, 4. エルゴード理論

Volume	項 目			出 版 時 期
1	A 1	A 2	B 1	37年 5月
2	A 3	B 2	C 1	37年 10月
3	A 4	B 3	C 2	38年 5月

最後にこのシリーズが、確率論研究者のみならず、他の専門分野の方にとってもいづらかでも役立つものとなれば、関係者一同にとってこれ以上の喜びはありません。

昭和 37 年 5 月

確率論セミナー事務局